

INGING RACE REPORT

SUPER FORMULA 2020

Round. **4** オートポリス

予選

決勝

11月15日(日)

天候: 晴れ コース状況: ドライ

戦いの舞台を九州オートポリスに移し、コロナ過で開催されるシーズンも折り返しを迎える。ここからシーズン後半の巻き返しを図るべくチームはオートポリスラウンドに臨んだ。久しぶりに訪れた晩秋のサーキットは、日中はぼかぼか陽気ながらも朝晩の冷え込みが厳しく10度以上の寒暖差。ソーシャルディスタンスを守りつつも、観戦日和のサーキットにはモータースポーツファンが来訪。スーパーフォーミュラはワンデーで開催されるが、サポートレースが行われていた前日から2日間に渡り楽しむ姿が見られた。

#38 石浦宏明 予選10位 決勝13位
#39 坪井 翔 予選4位 決勝リタイア



前日の公式練習では、39号車坪井がコースレコードを上回るトップタイムをマーク（走行時のオンボード映像は、TOYOTA GAZOO Racing公式ツイッターへ投稿されていますのでご覧ください）。午後の走行も坪井が2番手と絶好調。石浦は14番手とまだまだ改善の余地のある中で初日を終えた。ちなみに、開催時期がこれまでと違い晩秋となって気温も低い為、この公式練習日には2018年に記録された1分25秒799のコースレコードを15台ものクルマが上回る結果となった。

決勝日もサーキット周辺は快晴、かつ風もなく穏やかな朝を迎えた。季節外れの暖かさと言ってよいほどで、午前中の予選を迎える頃には20度を超えた。サポートレースも滞りなく行われ、いよいよメインイベントが午前10時過ぎよりスタートした。

○公式予選

今回もQ1は2グループに分けられ、石浦がA、坪井がBグループの振り分け。Q2、Q3のセッションは、これまでの7分間から10分間に変更された。これはタイヤを温める時間を考え設定されたものである。予選は、気温21度、路面温度25度でスタートした。

Q1 Aグループ石浦はウォームアップを済ませ、まず4番手のタイムをマークすると、アタックラップ2周目を1分25秒725で3番手につけた。残り14秒で7号車がクラッシュし赤旗が呈示されセッションが中断した。その時点で半分以上のクルマがアタックを終えていなかった。その後、残り時間を3分としてセッションが再開した。タイヤは換えずにコースインした石浦は、先に出したタイムはライバル勢に更新されるも5番手でQ1を通過した。

Bグループの坪井は、4分経過するとコースイン。ウォームアップを終えると3番手。ここからアタックラップに入った。しかし、ここで20号車がクラッシュ。残り46秒で赤旗が呈示されBグループも混乱する状況となった。ウォームアップの3番手タイムのままだが、残り時間3分で再開。ニュータイヤを選択するクルマが多く、坪井も投入しアタックに備えた。タイヤを温めると1分25秒152で5番手タイムをマーク。2台揃ってQ2へ進出した。Bグループのタイムは、全車コースレコードをマークした。

Q2 まず石浦からアタック。残り2分半で坪井もコースイン。石浦は1分25秒080、10番手で惜しくもQ3進出ならず。坪井は1分24秒683で5番手となりQ3に進出した。Q3へ進出するクルマ8台のタイムは、コンマ3秒内にずらりと並び非常に激戦のQ2であった。

Q3 気温は21度、路面温度は28度まで上昇した。10分間に延長されたセッションも、今回は充分気温も高くウェイトイングのクルマが多かった。残り3分を切ると坪井はコースイン。1分24秒686の4番手。トヨタ勢最上位と奮闘した。

○決勝

この大会の開催時期を考え、タイヤの温まり具合に配慮しフォーメーションラップを2周に増やすことにより、42週のレースは41周で戦われることとなった。スタートの1コーナー、4番手スタートの坪井は1つポジションを上げ3番手。石浦は、混み合う集団の中でのスタートとなり4つポジションを落とし14番手に後退した。

6周目、マシントラブルに見舞われたクルマがコースに非常に近いグラベルに止めてしまい、そのマシン回収のために7周目にセーフティカーが導入された。この時点で坪井3番手、石浦はペナルティを受けたクルマとリタイヤのクルマの脱落により2つポジションアップの12番手。10周目を迎えると、ピット作業が可能となる周回となる為、ライバル陣営の動向にも注目。9周目でセーフティカーのフラッシュライトが消灯。レース再開の合図となった。

10周でレースがリスタート。石浦は、1つポジションを上げ11番手。3番手の坪井が11周目の終わりにピットイン。6番手でコース復帰したが、そのピットアウト直後から左のリアタイヤが緩み始め、第一ヘアピンにマシンを止め無念のリタイヤとなった。この原因については、今後チームで調査し再発を防止する。

13周目坪井のマシンを回収する為、2度目のセーフティカーが導入された。これに乗りピットに続々と向かうマシンたち。8番手までポジションを上げていた石浦もピットに向かったが、ピット作業でタイムロス。14番手と大きく後退しコース復帰した。

16周目でレースはリスタート。石浦は前を行く19号車を猛追し続けるもなかなか前へ行けない。32周目、後ろから迫って来た20号車に先行を許す。レース終盤、ピット未消化の上位陣3台がピットに入り、全車ピットインを終えた時点で13番手、そのままチェッカーとなった。

坪井は優勝も見えていただけに、石浦は追い上げていただけに、ピットでのロスは残念な結果。残り3レースを、コース上での戦いに水を差さぬよう、チームを立て直して臨みたい。

ドライバー #38 石浦 宏明



「昨日は調子が悪く、夜遅くまでエンジニアと話し今日に向けてクルマのセッティングを変え予選はトライしました。予選はQ2ではコンマ5秒差と少し縮まりつつも、まだまだ足りないことが多かったと思います。決勝は、前戦の菅生ラウンドも含め、課題として決勝ベースが良くなかったため、今回決勝で追い上げたかたのですが、ピットでのトラブルもあって大きくポジションが下がってしまいました。追い上げようと思ったのですが、前後のインパル勢とのバトルは、レースペースがこちらにメリットがある訳でもなく苦しい状態のままでレースを終えてしまいました。」

チーム全体として自分も含め、今週は、ピット作業などうまくまわらなかったと思います。残すは2大会、3レースとなり、有効ポイント制で2回落としていますが、ここから先大きなポイントを獲得すれば可能性があるため、立て直していきたいです」

ドライバー #39 坪井 翔

「公式練習の走り出しはセットアップも試行錯誤でフィーリングが良くなかったですが、セットアップを換えて行ったら良い方向に進んでいき手応えを感じ、最後のニュータイヤでトップタイムアップを出せたので良いクルマになっていると感じました。2回目の走行でも良く、トップは狙えるパフォーマンスは出来ていたし自分もオートポリスは得意なので、自信を持っていけると思っていました。ただ練習は良くても、予選のQ2で失敗したこともこれまでであったので、今回の予選は慎重に、そしてポールを獲れるように頑張りました。Q3はホンダ勢のタイムが速くトヨタ勢には厳しかったのですが、どうにかトヨタのトップになれました。ポールに匹敵する速さはあったと思っていますので、決勝では予選ほど差はないと思っていました。」

決勝はスタートが上手く決まって3番手になって、前に出れば勝てると思えるほどクルマは良いフィーリングでした。前に近づけばダウンフォースが抜けるのでなかなか前に行けませんでしたが、後ろに付いていても余っている感じがするほど調子が良かったです、セーフティカーも入ってしまいましたが…。

前回の菅生でダメだったウォームアップも課題として取り組んで、今回とても速くなっていて、ピットに入るのもそのままレースを引っ張るのもクルマのペースが良くどちらも自信がありました。ピットを選択しピットに入りピットアウトして行ったら、1コーナーを通過する頃から挙動がおかしくなり、立ち上がって加速をしたらますますおかしくなったので、第一ヘアピンでクルマを止めました。タイヤの状況から原因は調査しないとわかりませんが、調子が良いレースだったのでもったいなかったです。ドライのレースで速さが出て来ていることは、とてもポジティブに捉えています。このオートポリスでの寒い時間帯に良いセットも見つけれ、残りのレースにも活かせると思いますので、有効ポイント制で2レース落とし厳しくはなりましたが、自分ができる仕事、残りのレースを全部勝つつもりで頑張ります」



**監督 立川 祐路**

「石浦は昨日からクルマが満足いくような仕上がりになってなくて、今日の予選も若干改善をしたものの苦しい展開になってしまいました。」

決勝のスタートも、集団の中の難しい位置からのスタートとなりポジションダウンしてしまいました。ペース的にも辛い部分もあり、またピット作業でもロスがありと、レースウィークを通してうまく行かなかったです。

坪井は予選も調子良かったし、Q3まできっちりと合わせてくれて、良いポジションからレースをスタートしました。スタートでポジションアップして、予定していた早めのピットストップも予定通りに進めることが出来ました。

クルマの調子も良く、優勝を狙える位置でレースをしていたと思います。しかし、肝心のピット作業で問題が出てしまい、リタイヤせざるを得ないことになり坪井には非常に申し訳なかったと思います。失ったものが大変大きかったですね。それを取り戻すため、次の鈴鹿は頑張っていきたいと思います」

**RESULTS****正式決勝結果（上位10台）**

Pos	No	Driver	Type	Car	Time/ Behind
1	16	野尻 智紀	HONDA/MTEC HR417E	TEAM MUGEN	1:07'11.228
2	5	山本 尚貴	HONDA/MTEC HR417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	0.663
3	64	牧野 任祐	HONDA/MTEC HR417E	TCS NAKAJIMA RACING	9.735
4	18	国本 雄資	TOYOTA/TRD 01F	carrozzeria Team KCMG	10.760
5	3	山下 健太	TOYOTA/TRD 01F	KONDO RACING	11.455
6	50	松下 信治	HONDA/MTEC HR417E	Buzz Racing with B-Max	12.114
7	1	N.キャンディ	TOYOTA/TRD 01F	VANTELIN TEAM TOM'S	13.273
8	36	宮田 莉朋	TOYOTA/TRD 01F	VANTELIN TEAM TOM'S	17.519
9	6	福住 仁嶺	HONDA/MTEC HR417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	19.660
10	65	大湯 都史樹	HONDA/MTEC HR417E	TCS NAKAJIMA RACING	23.593
13	38	石浦 宏明	TOYOTA/TRD 01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	28.272
—	39	坪井 翔	TOYOTA/TRD 01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	30Laps